

いこいの村 きりぎりす

題字 栗の木寮

2012年（平成24年）1月20日発行

第356号

発行責任者

いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集

いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi

2012年 あけましておめでとうございます

辰年生まれの3人に
今年の抱負を聞きました。

たくさん写真を
撮って飾って、
みんなに見てもら
いたい。

もう100（歳）近い
で、あの世から来い来
い言われるけど、元氣
に過ごせたらよい。

たくさん
歩きたい！

10月20日に、いこいの村30周年記念集会があるよ～！



みなさま 明けましておめでとございます。

今年は昨年比べ、いこいの村周辺の雪が少なく、穏やかな新年を迎えています。

昨年四月に開所した、認知症対応型グループホームやケアホームの皆さんにとっては初めてのお正月。昨年の大晦日、ごあいさつを兼ねて皆さんの年越しの様子を拝見しました。グループホームでは、ご家族が来られ、一緒にテレビを見ながら、のんびりと年越しをしておられました。またケアホームでは利用者の方と職員と一緒に年越しそばの準備をされていました。どちらも少人数で家庭的な雰囲気での年越しでした。

そして、元旦の午前中は、例年通り、おせちを持って地域にごあいさつに伺いました。いつも配食弁当をご利用いただいている方から、「薬を飲む



いこいの村
聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志

より、栄養が考えられたいこいの村のお弁当のほうに体に良いと思っています。お陰様で最近健康が回復しました。と喜んでいただきました。

地域まわりの後は、栗の木寮の仲間（利用者）に新年のごあいさつをさせていただきました。年々施設に残って新年を迎える仲間が増えています。さて、今年は、一月に旧日から保育園の改修工事が完了し、いよいよ窯焼きパンを中心とした新規事業が始まります。昨年十二月の法人事業企画委員会、関係者からの応募を基に、新しい施設名を検討いただきました。その結果、たから保育園の名称を受け継ぎ、新たな宝を生み出していくことの思いを込めて「たから」の里」と命名されました。

設立三〇周年となる本年も職員一同、力を合わせて更なる発展を目指します。



いこいの村・栗の木寮
利用者 加藤 正典氏 作

目標 達成率100パーセント!

法人後援会□上林世話人会の取り組み報告

□上林世話人会とは

□上林世話人会は、法人後援会と地元地域の方々が一緒に歩み今後の施設運営を支えていただくことを目的として、二〇〇二年七月、いこいの村において発足しました。八町区より各三名ずつ、計二十四名の世話人を選出し活動して下さっています。

世話人会の方々には、後援会への入会・継続を地域の中で勧めていただくことや、いこいの村へのご意見、ご要望等の取りまとめを担っていただいています。このような活動が、□上林地域にあるいこいの村の存在を支えてくださり、法人事業にとっても大きな原動力となっています。



地元□上林地域の皆さんに
支えられている拡大活動

二〇一一年七月の世話人会の定例会議にて、今年度の後援会入会継続拡大に向けての取り組みについて話し合われました。今年度はどの町区も短期間で一斉に取り組めるようにと、十月一日から十一月三十日までの二カ月間で活動をやりきること確認されました。

活動の中で聞こえてきた
声・声・声

十月に入り、各町区の世話人の方々が一軒一軒担当のお宅を訪問されました。



職員も何軒かのお宅へ同行させていただく中で温かい言葉をいただき、地域の皆さんに支えていただいているいこいの村があること、また頼りにもしていただいていることをひしひしと感じました。

後援会活動が

目指しているもの

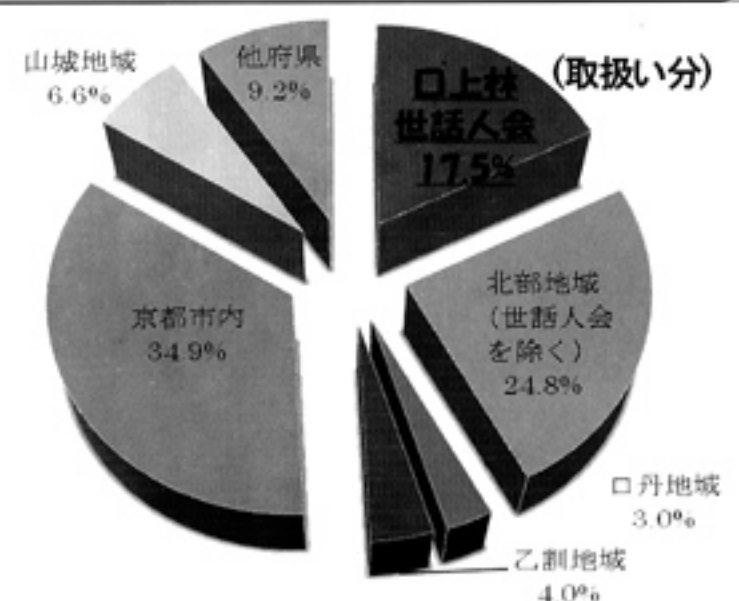
今年の法人後援会は「福祉と環境 福祉にECOと(いーこと)はじめよう 人にも地球にも優しい後援会活動」をテーマに掲げ、会員数二七〇〇名・会費収入一〇〇〇万円を目標に会員拡大に取り組んでいます。その中でも□上林世話人会は二百十五名の拡大目標をあげ、昨年度は一〇〇%達成、今年度も一〇〇%に迫る勢いで拡大活動を進めてくださっています。

2011年度 法人後援会会員拡大目標と入会数

全体目標		□上林世話人会	
目標	2700口	目標	215口
新規・継続入会数	921口	新規・継続入会数	213口
目標達成率	45.1%	目標達成率	99.1%

* 入会数及び達成率…平成23年4月～12月までの集計

2011年度 地域別での会員数の割合
(12月現在 全体入会数921口を100%として)



後援会では、会費をいただくだけではなく、バスツアーやお祭りでの福引きなど様々な形で楽しい取り組みを提供し、会員様同士の親睦をはかる企画も実施しています。

今年、いこいの村は、設立三十周年を迎えます。法人のサポーターとなってくださった皆さんのご期待に沿えるよう、日々の援助に取り組んでまいります。今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。(法人後援会)

いこいの村拡大委員会

シリーズ第四回

いこいの村三〇年を振り返って…

いこいの村・栗の木寮開所当初から、お世話なっている植山 きよ子様(植山理容店様)に開所当初を振り返り、貴重なお話を伺いました。

【三〇年を振り返って】

もう三〇年…、そんな気がします。私も口上林に店を出させてもらっています。少しだけ姉さんです。

義父(植山久雄氏、初代綾部市難聴者協会会長として活躍されていました)は途中からではありませんが、片方の耳が全く聞こえませんでした。いこいの村からお話をいただき難聴者協会に入らせてもらい、良いメンバーにめぐり逢えて忙しく生き生きとしていました。

栗の木寮では、手話をしないとダメです。そんな時、「ジェスチャー(身振り)でわかるで」と言ってくれたのも義父でした。

初めて仲間(利用者)を迎えたのが三人で、『順番なので待って』と職員さんが手話を使われました。それと『お金』という手話も、その時に覚えました。

それから綾部市の手話教室にも行きましたが、毎日使わないと忘れてしまいます。店に来てくれる仲間に聞いたりして、良い勉強をさせてもらっています。



「植山さんはな、優しいいいつも(いつも)上手に散髪してくれてや」

(植山 きよ子)

十年後には老人ホーム(梅の木寮)、ユニットホーム(梅の木寮ユニット型)へと、散髪に出張させてもらうことになりましたが、戸惑いもありました。

介護は大変だと思います。散髪に行かせてもらっている中で、職員さんの仕事ぶりやまた、話をされていることなどを聞いて一つ一つ勉強になり、義父の介護が必要になった時には大変助かりました。

店に来てくれる仲間、また出張で利用してくださっている皆さん、もう少しの間散髪のお手伝いをさせてもらえたら嬉しく思います。

しめなわのご購入、
生産のご協力を
ありがとうございました!!

障害者支援施設
いこいの村 栗の木寮

2012 年も
よろしくお願い
申し上げます



